

平成 27 年度 学校評価実施報告書

定時制 (1/2)

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
【教育課程】 一人ひとりの興味・関心・進路に対応した特色ある教育活動の展開を図る。	○新教育課程の取組を検証して、本校生徒に効果的な教育課程を再構築する。 ○学校外活動、定通併修、技能審査などによる単位認定の推進を行う。	・新教育課程の検証を行い、教育課程の再構築ができたか。 ・授業改善に関する教科会や研修会を充実させ、獲得させたい学力や効果的な授業展開・教材作成に関する情報共有が進んだか。 ・学校外活動、定通併修、技能審査などが整理され、単位認定を行うことができたか。	・キャリア教育と言語活動の充実に向けて、総合的な学習の時間および国語の教育課程の見直しを行った。また各種行事を授業化し、各教科の年間指導計画の中に位置づけた。 ・生徒の興味・関心を高める ICT 利活用のための模擬授業と研究協議を行った。 ・技能審査と学校外活動に関する教務内規を整理した。	・平成 29 年度以降の入学生の教育課程についての抜本的な検証と再構築を早急に進める。 ・学校外活動の活用促進、各種行事の授業カウントなどにおける課題の検証を行う。	(保護者) ・資格や検定試験の資格取得の機会があまりなかった。 ・発展的な学習もできるようにしてほしい。 ・基礎・基本的なことから学習できてよかった。 (学校評議員) ・津久井高校としての特色は何か、全日制福祉科があり、福祉のこころ等を生かしてはどうか。 ・「CAD」など ICT 関係の授業を行ってはどうか。	(学校評価) ・教育課程や教務内規の整理は進めたが、生徒への効果がまだ現れていない。 ・各種行事を授業カウントすることで、学校行事が持つ特色が薄れない工夫が必要である。  (改善方策等) ・技能審査や学校外活動の情報提供を行い、取り組みを推進する。 ・各教科の指導計画の中で、各種行事の位置づけが適切かつ効果的であったか随時検証する。
【生徒指導・支援】 モラル・マナー・ルールを尊重する心を育成し、高校生として良識ある行動ができるための生活習慣の確立を図る。 生徒が安心して活動できるための支援体制の充実を図る。	○授業や行事での指導、集団活動において人との関わりを体験することで、生徒一人ひとりが人権を尊重し、生活上のモラル・マナー・ルールを身につけられるようにする。さらに学校生活に対して前向きになるように支援する。 ○生徒個々の課題を職員間で共有するとともに、教育相談コーディネーターや養護教諭、担任等が連絡・連携を密にし、カウンセリングやケース会議等を活用することで、さまざまな課題に応じた指導をする。 ○日常的に授業・学年集会・HR 等を通して、お互いにモラル・マナー・ルールを尊重する態度を育てる。	・学習指導と生徒指導のねらいを明確にし、そのねらいに沿った指導を徹底できたか。 ・生徒一人ひとりが抱える様々な課題に対応し、良識ある行動がとれるレベルまで支援・対応することができたか。 ・職員間での課題の共有、密な連絡・連携、カウンセリングやケース会議等の活用を行うことができたか。 ・他者やモラル・マナー・ルールについて、日常生活で尊重する態度を身につけさせるとともに、学年に応じた指導ができたか。	・授業・集会等における携帯電話等の使用禁止について、非常勤講師にも協力を得て、全職員間で、学習にけじめをもって取り組むように指導した。 ・情報共有会議や普段の情報交換による、生徒情報の共有を行い、適宜カウンセリングやケース会議に結びつけることができた。また、SSW を活用し、市の各種機関との連絡協議等の連携を実施した。 ・教室掲示物を改善や学年ごとの集会や LHR 指導を通じて、モラル・マナー・ルールの浸透に努めた。	・授業や行事等でのモラル・マナー・ルールを守れない生徒も一部にあり、他者との関係を良好に築くためのモラル・マナー・ルールの大切さを理解させることと合わせて、指導を継続していく。 ・平成 28 年度は SSW の拠点校となるため、より効果的な SC や SSW の活用や様々な機関との連携を図る。 ・旧担任から新担任への生徒情報の引継ぎの方法を整理する。	(保護者) ・退学者をできるだけ減らしてほしい。子どもたちは、退学した友人のことをとても心配している。 ・色々な悩みを担任以外の先生にも相談できてよかった。 ・上級生は落ち着いて授業を受けているが、1 年生は一部にマナーを守れない生徒もいる。 (学校評議員) ・相模原市に 5 名の SSW がいるが活用は模索中である。次年度 SSW 拠点校として効果的な活用方法を模索してもらいたい。	(学校評価) ・モラル・マナー・ルールを尊重する指導体制を貫くことができた。 ・生徒の情報共有や相談体制ができつつある。 ・不登校の生徒などへの対応と SC 及び SSW の活用方法について、早急な検討と実行が必要である。  (改善方策等) ・職員全体が同じ姿勢でモラル・マナー・ルールの指導を徹底することを継続する。 ・生徒個々の課題や状況を共有し、引継ぎしやすいシステム（共通書式の使用など）の検討を行う。 ・SSW、SC とともに拠点校となる利点を活かし、不登校生徒や学校生活に馴染めない生徒とその保護者が学校の相談体制や外部からの支援を利用を促進する。
【学習指導・授業改善】 組織的な授業改善に取り組むと共に、生徒主体のわかる授業展開を図る。	○授業改善に関する教科会や研修会等を企画して、効果的な授業進行や学習効果の高い教材作成等に関して情報交換を行う。 ○授業改善において本校 全日制、近隣中学校、養護学校と連携し、授業見学や研修会に参加することで教授技術を共有する。 ○教科ごとに重点目標と手立てを掲げ、授業改善に取り組む。	・授業改善に関する教科会や研修会等を企画して効果的な授業進行や学習効果の高い教材作成等に関して情報交換を行えたか。 ・授業改善について、校内・校外における連携を進めることができたか。 ・各教科で取り組みを行い、生徒が主体的に取り組む、「わかる」という意識を抱けるようにできたか。	・各教科において生徒が主体的に取り組むワークシート、調べ学習、発表、実習などの研究と工夫を実施し、年度初めよりも意欲的に取り組むようになった生徒も見られた。 ・各教科の ICT 利活用の実践やアイデアをまとめ、共有化した。 ・全日制と合同の研究授業・協議を実施した。 ・津久井養護学校等の授業見学を実施した。	・県立高校改革実施計画（I 期）の「確かな学力育成推進校」として、学び直しや少人数指導を積極的に取り入れ、主に必修科目・フレッシュ等の指導方法・教材の研究を進める。 ・第 1 回授業評価と比較すると、第 2 回授業評価の結果からは各教科の指導の工夫と生徒が授業に取り組む意欲の向上が見られるが、「わかる」意識の向上には反映されていない。今後さらに、TT や習熟度別授業を 1 学年で導入し、基礎学力を着実に身につけるための方策を研究して行く。	(保護者) ・少人数ならではの効果的な授業をお願いしたい。 (学校評議員) ・上級学年が下級生を教えるなど、縦のつながりを作りつつ、下級生の基礎学力をつけ、上級生の自覚や自信を見につけられる授業を行ってはどうか。	(学校評価) ・授業方法や教材に生徒にも実感できる改善と効果があったのか、「わかる」という意識があまり向上していないことから、検証と一層の改善の取り組みが必要である。  (改善方策等) ・プロジェクトチームによる学び直し教材の作成、本校全日制および他校の取り組みの積極的な情報収集を行う。 ・1 年生の全ての授業において、TT や習熟度別授業を導入する。 ・1 年生の授業方法の効果を参考に、上級学年の授業改善の手法を研究する。

平成27年度学校評価実施報告書

定時制 (2/2)

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
<p>【キャリア教育】 一人ひとりが将来を展望し、進路決定できる力を育成すると共に、相談体制を充実することで、生徒の進路実現を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「共生・いのち・生きる」を年間行事の中でしっかりと位置づけ、計画的・系統的に実施することで、キャリア教育を推進する。</li> <li>○ガイダンス、カウンセリングを主体とした指導を行うことで、進路を意識した学校生活を送る姿勢を身に付かせる。</li> <li>○学年ごとの目標に沿ったキャリアプログラムを展開する。</li> <li>○県のキャリア支援事業の一環として、NPOや大学と連携することで、生徒への進路相談や就労支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「共生・いのち・生きる」の実施など、学年ごとの目標に沿ったキャリア教育が実施できたか。生徒の満足度はどうか。</li> <li>・生徒一人ひとりに対応したキャリアガイダンスが実施でき、進路希望が達成されたか。</li> <li>・県のキャリア支援事業がどこまで具体化されたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年ごとの「共生・いのち・生きる」の実施、1学年の生活習慣の改善指導、上級学年の具体的な進路指導、卒業予定者の労基法等に関するキャリア講座、1～3学年の進学・就職活動についてのキャリア講座等、学年に応じたキャリア指導を実施した。</li> <li>・卒業予定者への個々のキャリアガイダンスにより、ほぼ進路希望を実現できた。</li> <li>・県のキャリア支援事業において校内「ぼるとカフェ」、法政大学との行事での連携、卒業生対象キャリア講座を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度には「共生・いのち・生きる」の3分の2を授業化するとともに、総合的な学習の時間やLHRの中で計画的にキャリア教育を実施することとした。大学との連携や外部機関の活用も含めて、具体的なキャリアプログラムの開発を進めていく。</li> <li>・地域との連携を深め、社会人として生きるための知識や経験を得る機会を提供する手立てを研究する。</li> </ul>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進学に向けて個別の補習をやっていただいた。</li> <li>・働くことに関して学ぶ機会をもっと増やしてほしい。</li> </ul>	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担任や進路指導担当による個別の対応は行っているが、学校全体としてのキャリア教育が不十分である。</li> <li>・NPOとのキャリア支援事業を発展させ、より生徒へ還元できるような対策が必要である。</li> </ul> <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度初めの進路希望調査、総合的な学習の時間やLHRの一部での計画的なキャリア教育を導入し、NPOや大学との連携を学校からの要望を主体として実施する。</li> </ul>
<p>【地域連携等】 家庭、地域社会との連携、交流を推進する。様々な活動を通して地域に愛される学校づくりを進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高校体験プログラム、地域ボランティア、小学校・中学校・福祉施設・自治会等との交流や社会体験を通して、地域に本校の特色を広める努力を行うことに努める。</li> <li>○学校説明会等で生徒がより主体となり、学校情報を発信する。</li> <li>○ホームページ掲載情報の鮮度を保ち、地域社会の本校への理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に学校の実情を知らせ、特色を認識していただけるような広報活動ができたか。</li> <li>・地域との交流や社会体験プログラムに多くの生徒が参加できたか。参加することでどのような学びがあったか。</li> <li>・生徒が主体となって学校の説明をすることができたか。</li> <li>・時期に応じたホームページの更新を行うことができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域自治会の祭りへの生徒参加を継続し、今年度は防災訓練への教員参加を始めるなど、地域の方々に本校定時制を身近に感じていただけるように努めた。</li> <li>・例年通りの地域交流や体験プログラムを実施し、参加生徒は教科書からは得られない様々な現場での知識や体験を通して、社会の一部を知ることができた。</li> <li>・学校説明会では、生徒が学校生活全般の説明や案内の手伝いをするなどした。</li> <li>・行事や地域交流などの度に、活動報告をホームページに掲載することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域における生徒活動の機会は多くなく、生徒の活動に時間的な制約はあるが、新たな連携や活動の開拓を進めていく。</li> <li>・地域でのインターンシップやボランティア活動の機会を増やし、将来的に地元で貢献できる生徒を育てていけるプログラムを研究する。</li> </ul>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校外の実習や体験活動の機会があまりなかった。</li> <li>・学校行事等に保護者が参加し、生徒を応援できる機会が増えるといいのではないかと。</li> </ul>	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との交流や、学校外の体験活動の機会の提供はあるが、参加する生徒はごく一部である。定時制の生徒でも参加しやすいプログラムの検討が必要である。</li> <li>・保護者や地域の力を活用して生徒に様々な体験をさせるとともに、地域に生徒を知ってもらい、生徒が活躍できる機会が必要である。</li> </ul> <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会、福祉施設との交流を継続するとともに、地域の公益社団法人等とも連携し、生徒が活動できる様々な機会を増やす。</li> </ul>
<p>【学校運営・学校管理】 事故・不祥事の防止を徹底すると共に、防災意識を高め、安全教育を推進する。 いのちを大切にす心、いじめを許さない心をはぐむ教育を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各教科における生命尊重の教育の授業を推進していく。</li> <li>○教室等の清掃活動を充実させ、身近なところから意識啓発をはかる。</li> <li>○防災計画および夜間停電や帰宅困難者を想定した避難訓練等を通して、防災、安全への意識を高める。</li> <li>○集会等での講話や日常の生徒指導を通して、いじめ・暴力のない、互いの存在を認め合い、命の大切さを自覚する校風をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命尊重の視点を盛り込んだ授業が実施できたか。</li> <li>・教室等、校内で安全を実感できる環境を保持することができたか。</li> <li>・適切な防災計画を策定し、有効な防災訓練を実施できたか。</li> <li>・いじめ等の発生状況を把握し、検証できたか。</li> <li>・命を大切にす意識が生徒の中に生まれてきたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科でいのちの授業を実施した。また「共生・いのち・生きる」を来年度は授業の中でも実施することとした。</li> <li>・教室やトイレなどの整理整頓と清掃を毎週実施し、清潔な状況が比較的保たれた。</li> <li>・夜間避難訓練を実施した。また避難あるいは被災時に有用な機材備蓄を拡充した。</li> <li>・学校生活に関するアンケートの改善や日常の声かけなどで、いじめその他の問題発生状況の把握につとめ、必要に応じて対処した。</li> <li>・集会やLHR、授業等で他者を尊重する心や人間関係作りの大切さを伝え、命の大切さやいじめを許さない意識が築かれた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科内容や学年に応じた「共生・いのち・生きる」の授業内容を研究する。</li> <li>・全日制と共用する場所の整備について、両課程での協力を進める。</li> <li>・宿泊防災訓練の導入にあたり、職員の体制や設備、訓練内容について、慎重に準備を進める。</li> <li>・SSWやNPO法人と連携し、生徒のコミュニケーション力向上のための研修プログラムを検討し、実施する。</li> </ul>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全日制と共用する場所をきれいに保ち、自分のものをきちんと管理することで公共の場でのマナーなども育まれる。今後も全日制と協力して指導を続けてほしい。</li> </ul> <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒と教師の目線を合わせ、温度差なく対応してほしい。</li> </ul>	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清掃活動により教室やトイレなどが清潔に保たれた。学校外の公共の場でも同様のマナーが守られる指導を続けることが必要である。</li> <li>・生徒のコミュニケーション力を育成することが、いのちを大切にし、いじめを許さない心を育むために大事である。生徒同士、生徒と教員が互いに尊重し合い、社会にでるために必要なコミュニケーション力を身につける教育プログラムの開発を推進しなければならない。</li> </ul> <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内の清掃活動の徹底を継続し、地域清掃の機会を増やす。</li> <li>・他人を尊重する視点やカカカウンセリングマインド、コミュニケーション力を身につける教員・生徒向けの研修やワークショップを実施する。</li> </ul>